



北上川ダム統合管理事務所

安全で快適な
くらしを
支えるために



御所ダム



四十四田ダム



田瀬ダム



胆沢ダム



湯田ダム

管理概要 2024

Management Overview 2024

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



● 持続可能な開発目標 (SDGs)

2015年に国連で採択された「2030年までの達成を目指す17の目標」が、持続可能な開発目標 (SDGs) です。

国際機関、政府、企業、学術機関、市民社会、子どもも含めた全ての人々が、それぞれの立場から目標達成のために行動することが求められています。

● 北上川5大ダムの役割とSDGsについて

北上川ダム統合管理事務所では、河川法の目的である『治水・利水・環境』から、7個の目標を設定し行動しています。



ホームページ <http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/>



公式X(旧Twitter)

問合せフォーム E-Mail: kitakato@mlit.go.jp

大地を潤し、地域を育

岩手の五大ダム

昭和16年（1941年）に策定された「北上川上流改修計画」、その後昭和28年（1953年）に北上川の流域開発を目的として策定された「北上特定地域総合開発計画（KVA）」によって、洪水調節や、発電、かんがい等の供給を主とした、多目的ダム群の建設が位置づけられ、石淵ダム、田瀬ダム、湯田ダム、四十四田ダム、御所ダムが完成しています。（通称“北上川五大ダム”）

その後、石淵ダムの再開発として、胆沢ダムが完成（H25.11）しています。



北上川の源泉
(岩手町御堂)



四十四田ダム



御所ダム



田瀬ダム



湯田ダム



胆沢ダム

INDEX

岩手の五大ダム	2ページ
五大ダムの姿	4ページ
田瀬ダム	4ページ
湯田ダム	4ページ
四十四田ダム	4ページ
御所ダム	5ページ
胆沢ダム	5ページ
五大ダムの役割	6ページ
洪水調整	6ページ
ダム再生	9ページ
利水	10ページ
環境	13ページ
洪水時の対応	14ページ
ダムの維持管理	16ページ
地域とともに	20ページ
北上川五大ダムと岩手県の歩み	24ページ
ダムものしり館	26ページ
管理事務所のあらし	27ページ

んで半世紀。



北上川流域の概要

北上川流域の主な緒元

源 泉／岩手県岩手郡岩手町御堂（弓頭みどうの泉）
河 口／北上川 宮城県石巻市 追波湾 旧北上川 宮城県石巻市 石巻湾
幹川流路延長／249km（全国5位）（河川法で指定されている区間の延長）
流域面積／10,150km²（全国4位 日本国土の約1/37）
（北上川五大ダム流域 3,339km²）
土地利用状況／山林 約78% 農地 約18% 市街地 約4%
流域人口／135万人（岩手県 住民基本台帳年報 [R5年1月1日現在]、宮城県 住民基本台帳 [R5(2023)年1月末現在]）
流域内市町村／12市9町
年平均流量／297.18m³/s（昭和27年～令和4年、一関市狐禅寺）



四十四田ダムから盛岡市街地を望む

北上川の特性

1. 降雨特性

降雨量をみると、流域平均年降水量は約1,500mm、平野部及び北上高地は1,000～1,300mm程度、奥羽山脈の山地部で1,500～2,500mm程度となっています。

※参考：全国平均約1,538mm（国土交通省[令和5年度版日本の水資源の現況]より令和4年降水量）

2. 河道特性

一関・平泉地区は一関下流部から宮城県境付近まで約27km続く狭窄部（最も狭いところで川幅100m程度）の直上流にあるため、洪水が起こりやすい地域となっています。

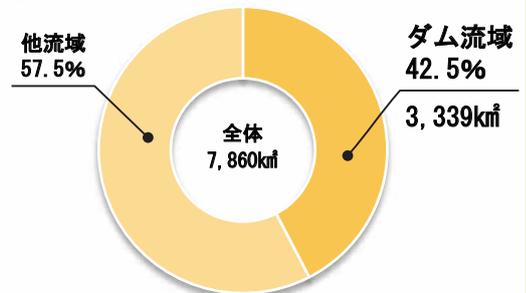
さらに、狭窄部から河口までの川の勾配が緩やかなため下流に流れにくいことも、洪水が起こりやすい要因となっています。

3. 水利特性

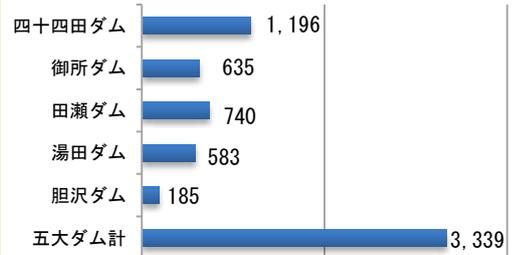
江戸時代には北上川の舟運が流域の交通・輸送の大動脈になり、人や米・塩といった生活物資の大量輸送に広く活用されていました。

また、北上川流域では、中世末期頃から、北上川の支川を中心に大規模な農業取水施設が設置され、農作物の貴重な水として活用されてきました。近年、ダムに貯留された豊富な水はかんがい用水や発電・上水道など私たちの生活に欠かすことのできない水資源としても利用されています。

【約4割を占めるダム流域】

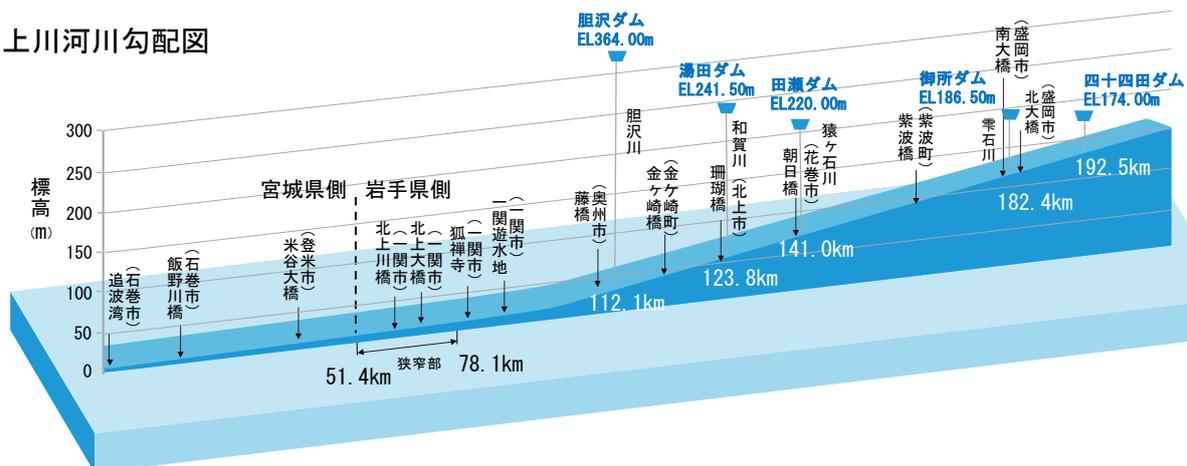


北上川上流域（岩手県）における五大ダム流域が占める割合

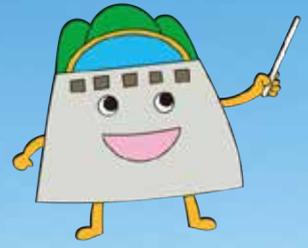


五大ダム流域面積 (km²)

北上川河川勾配図



五大ダムの姿



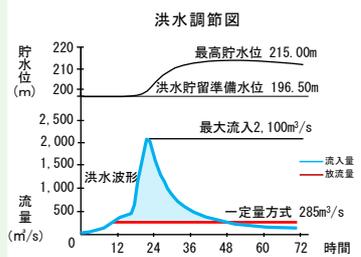
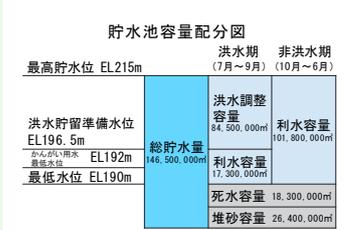
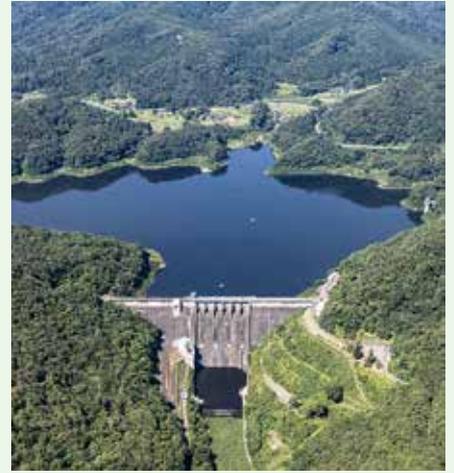
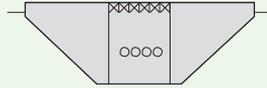
たせ 田瀬ダム

国が直轄施工したダム第1号

【竣工から70年】

田瀬湖：花巻市・遠野市

- 水系／河川名：北上川／猿ヶ石川
- ダム型式：重力式コンクリート
- 流域面積：740.0km²
- ダム高：81.5m
- ダム長：320.0m
- 堤体積：420,000m³
- 湛水面積：6.0km²
- 発電量：27,000kw
- 着工／竣工：S16年／S29年



竣工年
1954

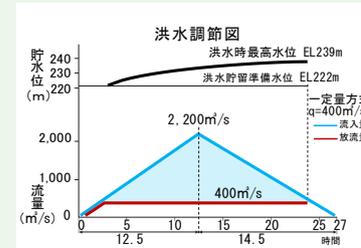
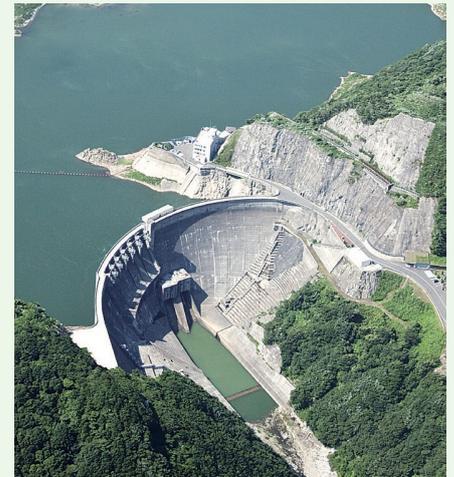
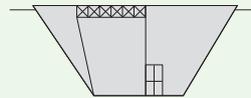
ゆだ 湯田ダム

「輝く四季」と「いで湯」の錦秋湖

【竣工から60年】

錦秋湖：西和賀町

- 水系／河川名：北上川／和賀川
- ダム型式：重力式アーチ
- 流域面積：583.0km²
- ダム高：89.5m
- ダム長：264.9m
- 堤体積：379,900m³
- 湛水面積：6.3km²
- 発電量：(仙人) 37,600kw (和賀川) 16,300kw
- 着工／竣工：S32年／S39年



竣工年
1964

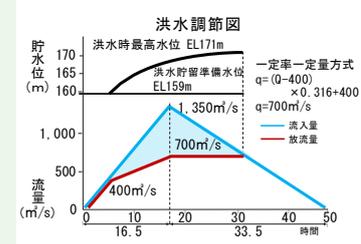
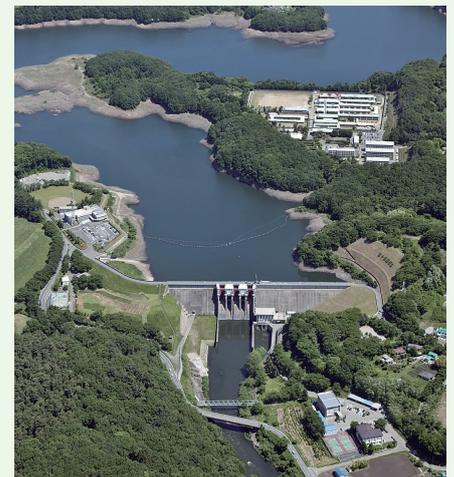
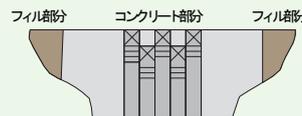
しじゅうしだ 四十四田ダム

北上川本川に建設されたダム

【竣工から56年】

南部片富士湖：盛岡市・滝沢市

- 水系／河川名：北上川／北上川
- ダム型式：重力式コンクリート
- 流域面積：1,196.0km²
- ダム高：50.0m
- ダム長：480.0m
- 堤体積：コ290,000m³・土92,150m³
- 湛水面積：3.9km²
- 発電量：15,100kw
- 着工／竣工：S37年／S43年



竣工年
1968

5つのダム連携で、流域の暮らしを支えています。

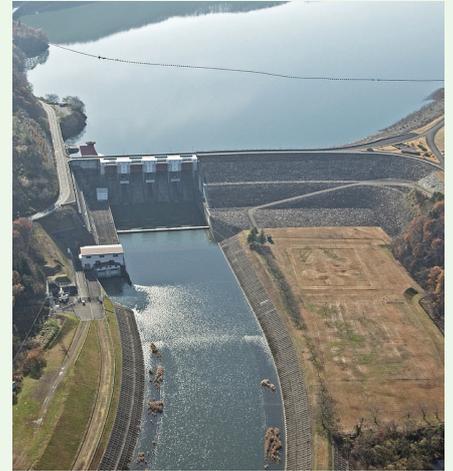
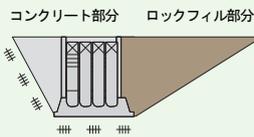
御所ダム

五大ダムの内、湛水面積が最大のダム

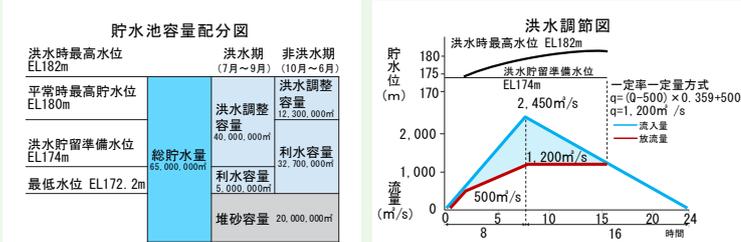
【竣工から43年】

御所湖：盛岡市・雫石町

- 水系／河川名：北上川／雫石川
- ダム型式：コンクリート・ロックフィル複合
- 流域面積：635.0km²
- ダム高：52.5m
- ダム長：327.0m
- 堤体積：コ220,000m³・石980,000m³
- 複合ダム
- 湛水面積：6.4km²
- 発電量：13,000kw
- 着工／竣工：S44年／S56年



竣工年
1981



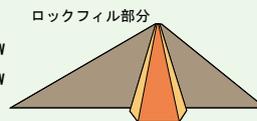
胆沢ダム

「石淵ダム」の役割を引き継ぐロックフィルダム

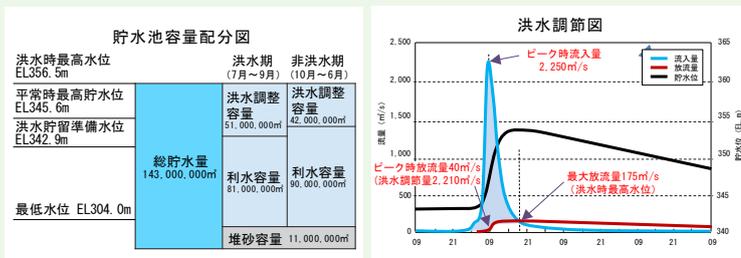
【竣工から11年】

奥州湖：奥州市

- 水系／河川名：北上川／胆沢川
- ダム型式：中央コア型
- 流域面積：185.0km²
- ダム高：127.0m
- ダム長：723.0m
- 堤体積：13,500,000m³
- 湛水面積：4.4km²
- 中央コア型ロックフィルダム
- 発電量：(胆沢第一)14,200kw (胆沢第三)1,600kw
- 着工／竣工：S63年／H25年



竣工年
2013

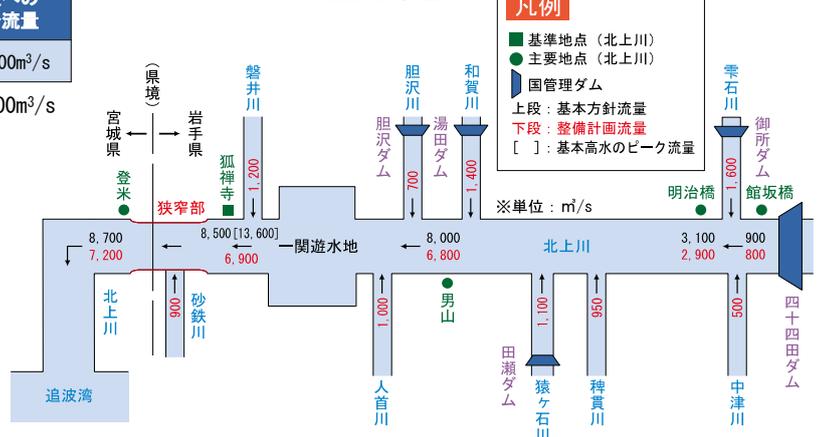


北上川の治水対策

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節容量	河道への配分流量
北上川	狐禅寺	13,600m ³ /s	5,100m ³ /s※	8,500m ³ /s

※上流ダム群2,800m³/s＋一関遊水地2,300m³/s

北上川流量分布図



五大ダムのダム地点における調節量 (5ダム合計：7,590m³/s)

洪水調整

自然の脅威から流域の暮らしを守ります。



洪水調節

大雨時に上流から流れ込む水をダムで貯め込み、下流への水の量を低減させ洪水被害を軽減することができますが、ダムの最も重要な目的の一つです。ダムによる洪水調節は、下流部の河川の改修効果とともに、洪水防御を行う極めて有効な治水対策です。

洪水調節とは？

ダムの上流からある一定規模以上の流水がダムに入ってきたときに、その一部を一時的にダムに貯留する機能です。この調節により、ダム下流河川の水位上昇が抑えられ、洪水氾濫を軽減させることができます。

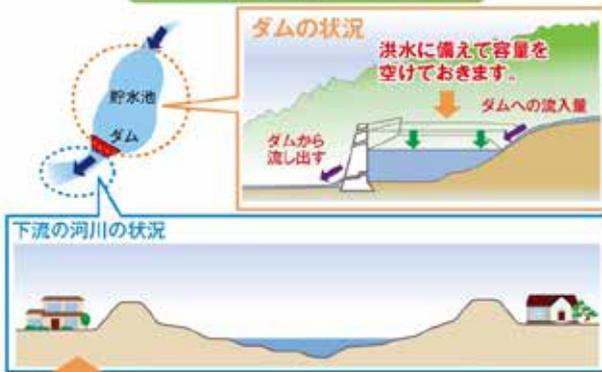


ダムは、下流の河道で氾濫が起きないように上流からの流水の一部をダムに貯め込んで、下流に流れる水量を低減させます。

①洪水に備える

台風や大雨による洪水の起きやすい季節には、前もって貯水位を下げて容量を確保しておき、流水をダム貯水池に溜めるための準備をします。
また、大規模な洪水が予測される場合には、利水容量に貯留している水の一部を事前に放流して備えます。

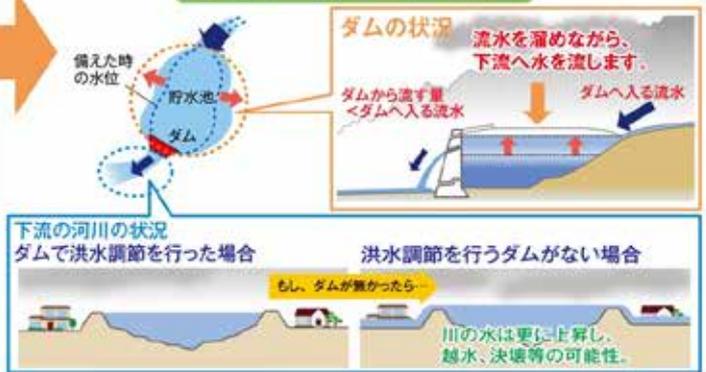
ダムによる洪水調節の仕組み①



②流水を貯め込む

大雨が降り洪水になると、安全な分だけ下流に流して、残りをダムの貯水池に貯め込みます。
ダムから下流に流す水は、普段(①のとき)より増えるため、事前にダムからスピーカ等で状況をお知らせします。
なお、ダムに水を貯め込むことを防災操作と呼んでいます。

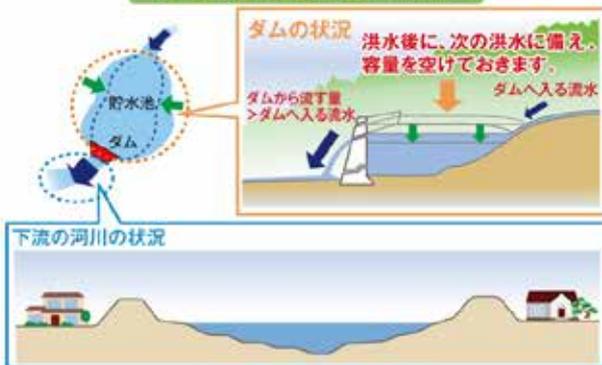
ダムによる洪水調節の仕組み②



④次の洪水に備える

大雨が止み、洪水が過ぎ去ると、ダムへ流れ込む水量も小さくなります。貯水池は、流水を溜めた分だけ水が増えているので、次の洪水に備えて、下流の河川の状況を見ながら、溜めた水を流して貯水池の容量を空けます。

ダムによる洪水調節の仕組み③



③計画規模を超える洪水への対応

異常な豪雨により、ダムを造るときに想定したよりも、大きい量の流水がダムに流れ込むことがあります。ダムでも精一杯②のように流水を溜めながら下流に流す操作を行います。ダムに貯めることができる水の量には限界があります。
このような場合には、ダムから下流に流す水の量を徐々に増やしなが、ダムに入ってくる水の量と同じ量を下流に流すようにします。(緊急放流)





洪水調節の効果 ～2ヶ月連続で既往最大の洪水が発生～

平成25年の8月9日豪雨と9月16日台風18号による出水では、御所ダムと四十四田ダムにおいて計画高水流量を上回る洪水が発生しました。

特に8月9日の御所ダムでは短時間の集中豪雨により、計画高水流量2,450m³/sをはるかに上回る流入量3,733m³/sを記録しました。

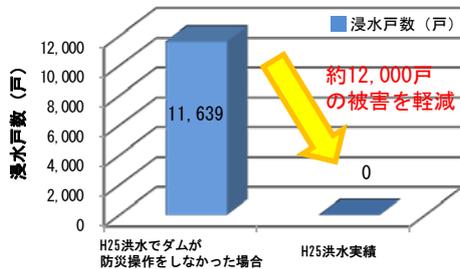
御所ダム・四十四田ダム共に可能な限り水を貯め込む防災操作を行い、下流河川の水位低減を図りました。

これにより北上川及び雫石川からのはん濇による盛岡市街地での浸水被害を防止し、浸水家屋数で約12,000戸・被害額で約5,500億円を軽減したと推定されます。

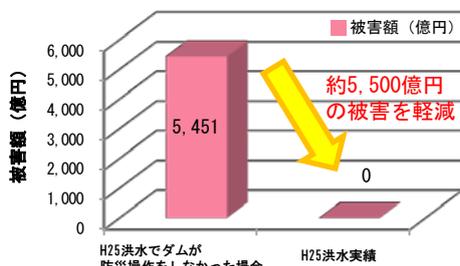
ダムの防災操作をしなかった場合の盛岡市街地におけるはん濇範囲（推定）



盛岡市街地における浸水家屋数



盛岡市街地における浸水被害額



※被害想定は推定値です



四十四田ダムでの流木の捕捉状況

洪水調節の効果 ～田瀬ダム既往第2位の洪水が発生～

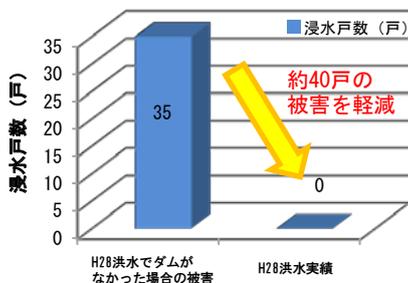


平成28年8月30日の台風10号に伴う出水では、田瀬ダムで既往第2位となる最大流入量1,050m³/sを記録する洪水となり、1,380万m³（東京ドーム約11個分に相当）をダムに貯め込み、下流被害の軽減を図りました。

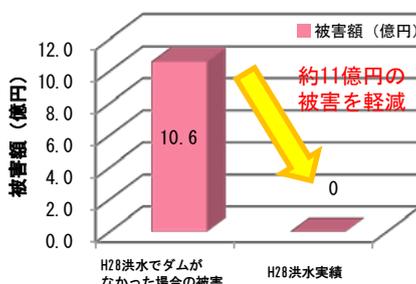
田瀬ダムが無かった場合、ダム下流の花巻市東和町土沢（猿ヶ石川13.0k地点）では、計画高水位を上回り、堤防決壊に伴うはん濫・家屋浸水が発生する危険性が高まっていたと推測されます。

ダムの防災操作をしなかった場合の花巻市東和町におけるはん濫範囲（推定）

花巻市における浸水家屋数



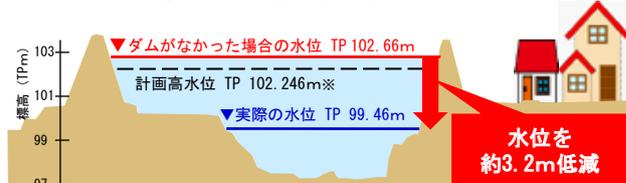
花巻市における浸水被害額



※被害想定は推定値です



ダムが無かった場合の下流河川の水位（推測）
（花巻市東和町土沢 猿ヶ石川13.0k地点）



※ 計画高水位：計画高水流量を安全に流下させることが出来る計画上の水位

洪水調節の効果 ～湯田ダム既往第2位の洪水が発生～



令和5年7月15日の梅雨前線に伴う出水では、最大流入量1,176m³/sを記録する洪水となり、湯田ダムで既往第2位となる5,300万m³（岩手県庁約620棟分に相当）をダムに貯め込み、下流被害の軽減を図りました。

湯田ダム貯水位・流入量・放流量



■湯田ダムの貯留状況(西和賀町杉名畑)



ダムが無かった場合の下流河川の水位（推測）
（北上市江釣子 和賀川4.8k地点）



ダム再生

コンバインダム
嵩上げへのチャレンジ
～ダム機能の向上促進で『県都盛岡』の
安全で安心な暮らしを実現～

ダム再生事業

～北上川上流ダム再生事業～



北上川上流ダム再生事業は、岩手県の県都であり、国道4号、46号、東北新幹線など北東北の交通の要衝でもある盛岡市を水害から守るために、四十四田ダムの嵩上げ及び御所ダムの操作方法の変更により治水機能の増強を図る事を目的とした事業です。

両ダムでは近年、ダム計画を上回る洪水流量を記録するなど、豪雨災害へのリスクが非常に高まっていることから、令和元年度から実施計画調査を進めています。

気候変動に伴い頻発・激甚化する水害等に対し、あらゆる関係者（国・都道府県・市町村・企業・住民等）により流域全体で行う治水「流域治水」の一環として取り組んでいます。

北上川流域



明治橋地点上流の流域



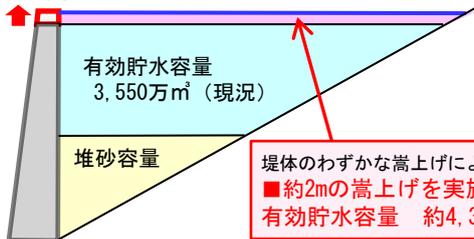
四十四田ダム（嵩上げイメージ）



■ 流域面積内訳（明治橋地点上流）

地点名	流域面積 (km ²)	割合 (%)
明治橋上流	2,184.9	100.0
内訳	四十四田ダム	54.7
	御所ダム	29.1
	残留域	16.2
	1,196.0	83.8
	635.0	
	353.9	

■ 嵩上げ（四十四田ダム）



堤体のわずかな嵩上げにより、有効貯水容量を大きく増加させられます。
■約2mの嵩上げを実施した場合
有効貯水容量 約4,300万m³（約1.2倍）

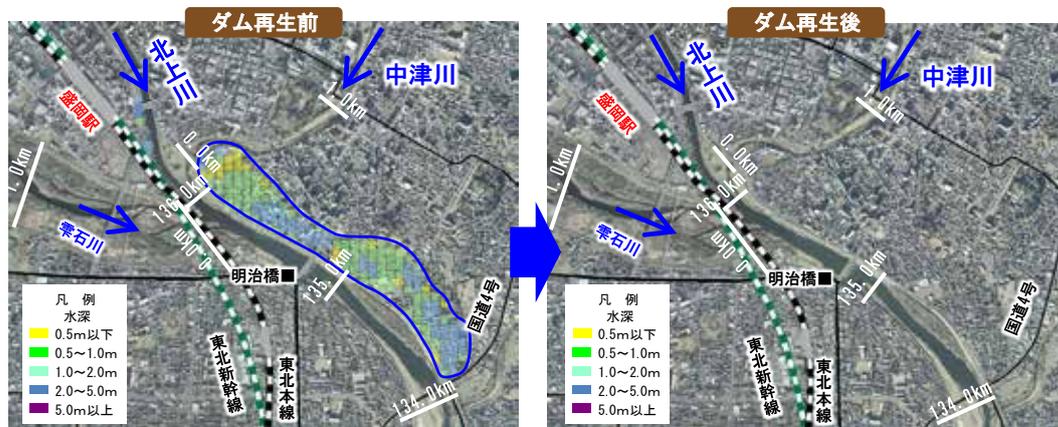
盛岡市の明治橋地点上流の流域面積約2,200km²の内、四十四田ダムと御所ダムの流域が占める割合は84%と大きく、両ダムの働きが盛岡市の洪水に対する安全性に大きく影響しています。

北上川上流ダム再生事業の効果



河川整備計画規模での洪水（昭和22年9月洪水、カスリン台風）と同規模の洪水が発生した場合、盛岡市中央部の北上川、中津川、雫石川3河川合流地点付近では浸水世帯約1,200戸、浸水面積約100haの被害が想定されています。

北上川上流ダム再生事業により盛岡市など上流域の浸水被害が解消されます。

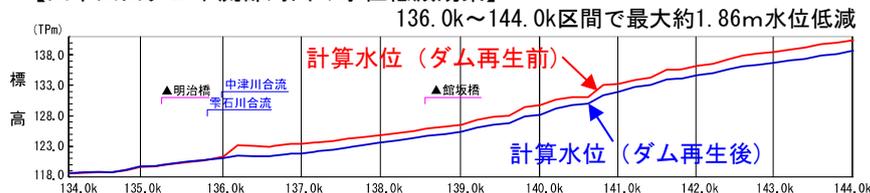


河川整備計画の目標洪水と同規模の洪水が発生した場合に想定される浸水区域

【ダム再生事業による浸水被害軽減効果】

	①ダム再生前	②ダム再生後	軽減効果 (①-②)
浸水世帯数	1,200	0	1,200
浸水面積 (ha)	100	0	100

【四十四田ダム下流部河川の水位低減効果】



利水

母なる北上川の恵みを有効活用。



発電 ◎原油価格約93億円分に相当◎



発電用水として五大ダム合わせて最大227.8（常時58.25）m³/sが取水され、最大出力124,800kWの発電が行われています。

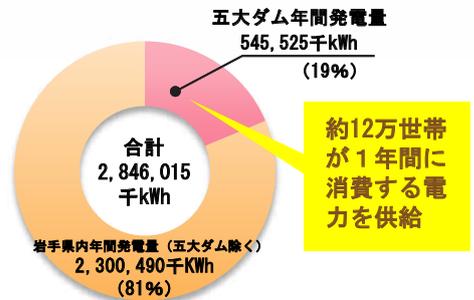
ダム名	河川名	取水量 (m ³ /s)	最大出力 (kw)
五大ダム		最大 227.8 常時 58.25	124,800
田瀬	猿ヶ石川	最大 35 常時 16.02	27,000
湯田	和賀川	最大 60 常時 13.61	仙人発電所 和賀川発電所 37,600 16,300
四十四田	北上川	最大 55 常時 17.4	15,100
御所	雫石川	最大 60 常時 8.95	13,000
胆沢	胆沢川	最大 17.8 常時 2.27	第一発電所 第三発電所 14,200 1,600



四十四田ダム

五大ダムの年間発電量515,106 kWhは、約12万世帯分（岩手県の世帯総数の約21%）の1年間の消費電力をまかなえる量となります。[545,525,000 (kWh/年) / 4,586 (kWh/年) / 世帯（環境省「令和4年度 家庭部門のCO2排出実態統計調査（確報値）」）

≒12万世帯]



(R1 いわたの統計情報、R5 ダム管理年表より)

五大ダムの年間発電量545,525 kWhは、原油量に換算すると、132,493 kℓに相当。原油価格に換算すると約93億円になります。

さらに、同じ発電量を石油火力発電で行った場合の二酸化炭素排出量の差は、年間約40万ト。この二酸化炭素を吸収するには、約451平方kmの森林（※2）が必要な計算となり、地球環境の保全にも大いに貢献しています。

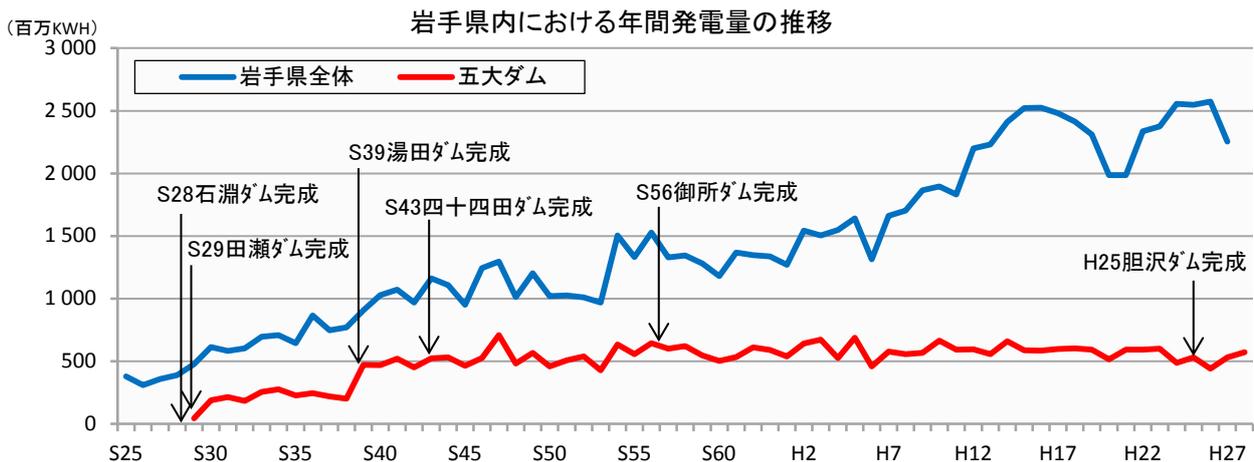
※1 原油は1kℓ 70,310円で計算

※2 40年生前後のスギ人工林が吸収するCO2は、約8.8t/ha・年（林野庁HPより）として計算

■岩手の振興を支えた五大ダムによる電力供給



岩手県内の発電量の推移を見ると、北上川五大ダムが完成する毎に発電量が顕著に増大しているのが分かります。県内の発電量に占める五大ダムの割合は、石淵ダム・田瀬ダム完成後は概ね30～40%、湯田ダム完成後～昭和50年代までは概ね45～50%に及びました。電力供給を通じて、五大ダムが戦後の岩手県内の振興に大きく貢献してきました。



五大ダムの役割

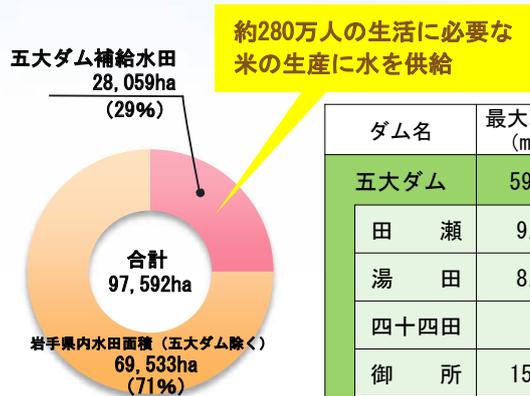
河川の流量が豊かな時に水を貯留し、発電用水やかんがい用水、上水道用水などに利用できるよう水量補給を行っています。

かんがい用水



北上川の水は、古くからかんがい用水として使われてきました。四十四田ダムを除く4ダムからかんがい用水として必要な時期に最大59.88m³/sを取水しています。

この取水により、岩手県内の水田面積97,592ha(※1)のうち約29%の28,059haの水田が潤っています。これは、約280万人分(※2)の年間の米消費に相当する水田面積となります。



※1 岩手県の水田面積 (R1 岩手県統計年鑑より)
 ※2 岩手県の令和4年産水稲10a当たり収量(農林水産省HPより)から、五大ダム補給水田の米収量を算出した。米1人当たりの消費量の推移(公益社団法人 米穀安定供給確保支援機構HPより)から、1人当たりの年間米消費量を算出した。五大ダムの米収量を1人当たりの年間米消費量で割ることで、五大ダムで米を供給できる人数を約280万人とした。

■ かんがい補給区域

河川環境の保全



魚類や昆虫などの生物の生息環境に必要な水量の確保や流水の清潔の保持など、河川本来が持っている機能を維持するためダムからの水量補給を行っています。

上水道用水



上水道用水として奥州市・金ケ崎町が胆沢ダムから0.322m³/s(27,863m³/日)取水しています。これは、約106,000人(※3)の水道用水をまかなえる水量となります。

※3 生活用水使用量 262L/人・日 (R5 日本の水資源の現況より)として算出
 参考) 奥州市人口111,632人
 金ケ崎町人口15,239人
 (岩手県 住民基本台帳年報[R5年1月1日現在])

工業用水

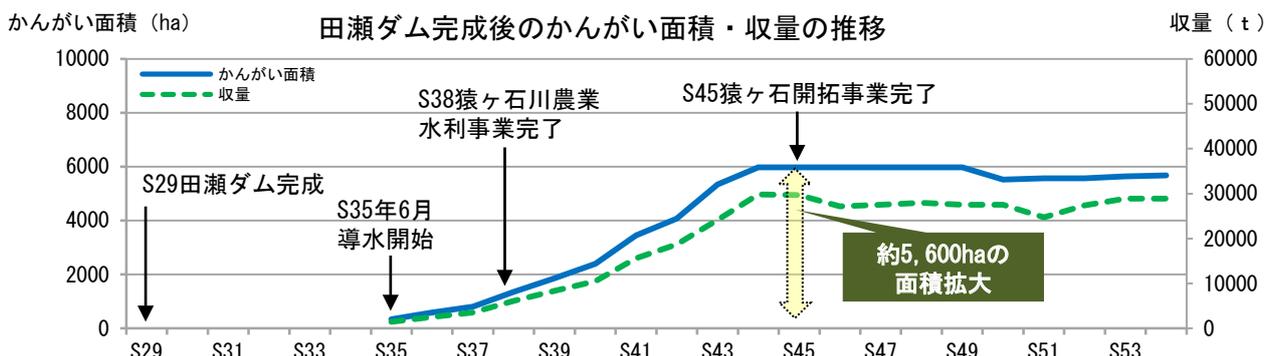


令和2年に御所ダム貯留水の工業用水使用が許可され、令和5年4月から暫定取水が開始されました。今後、最大で64,800m³/日の水量をダム下流の北上川から取水し、北上工業団地の企業に工業用水を安定的に供給できるようになり、産業振興と雇用の創出に寄与していくことが期待されます。

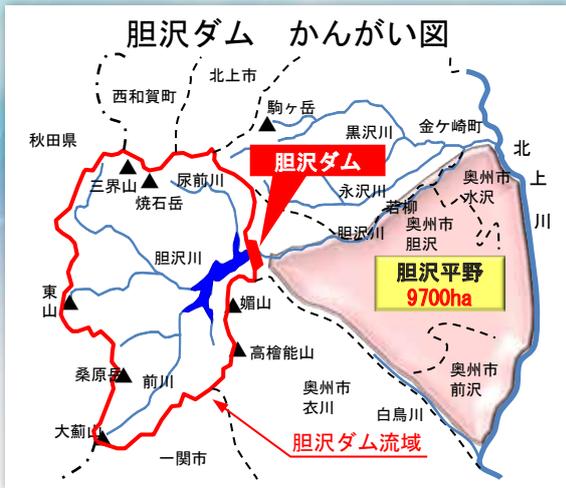
田瀬ダムのかんがい用水補給により農地拡大



昭和29年に田瀬ダムが完成し、猿ヶ石川農業水利事業、猿ヶ石開拓事業により江刺、猿ヶ石川北部地区への導水・開拓が進捗しました。当初は、戦時中の電力供給源として期待された田瀬ダムですが、かんがい用水の補給により農地拡大、食糧増産においても大きく貢献しました。



胆沢ダムの水量補給効果 ~胆沢ダム、平成6年以来の少雨を救う~



平成27年は6月から8月の胆沢ダム流域の降雨量は過去5年の平均を大きく下回り、平成6年以来21年ぶりの渇水に見舞われました。

平成6年は渇水により石淵ダムが7月下旬に取水不能となり、胆沢平野の稲作は困難を極めました。平成27年の渇水では胆沢ダムからの水量補給により、水稻に大切な穂ばらみ期を乗り切ることができました。

平成6年の渇水による石淵ダム、胆沢平野の状況



干上がった石淵ダム



水田ひび割れ

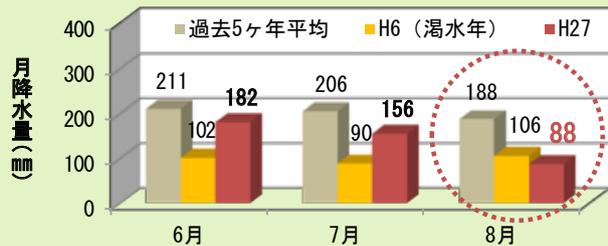


水稻立枯



消防ポンプによる散水

H27 胆沢ダム流域の降雨状況 (流域平均雨量)



※H27. 8月は20日迄

かんがい用水補給量の比較 (H6年とH27)



H27年は胆沢ダムにより、H6年渇水時の約5倍の水量を補給

胆沢ダム運用後の効果

~農業用水管理の軽減~



農業用水の安定供給により、施設管理の委託数が削減されました。

また、土地改良区職員の渇水対策日数は胆沢ダム完成以降は0日となった上、普段の水管理にかかる従事時間も半減されています。

用水に関する通報もダム完成前後で大幅に減少し、水管理の負担が軽減されました。

評価項目	ダム完成前	ダム完成後	効果
農業用水確保量	10.974m³/s (普通期)	20.152m³/s (普通期)	用水確保量の増加 1.9倍
管理施設数 (委託費)	98施設 (約421万円)	68施設 (約317万円)	施設数減少により 約100万円支出減
土地改良区職員の水管理時間	2,115時間 (平成24年)	1,082時間 (平成25年)	水管理にかかる従事時間が半減
渇水対策日数	16日 (平成24年)	0日 (ダム完成後)	渇水発生なし
用水通報件数	120件 (平成24年)	20件以下 (ダム完成後)	通報件数は 1/6以下

※木下幸雄、胆沢ダム整備事業の効果とその増進方策、農業農村工学会誌、第86巻 平成30年1月より、北上川ダム統合管理事務所にて作成

環境

自然と調和した
健やかな水辺環境の創造。



豊かな河川環境の創出

●胆沢ダム 水量補給と流況

流況の安定 石淵ダムから胆沢ダムへ役割を引き継いだ後は、水量補給を安定して行っています。



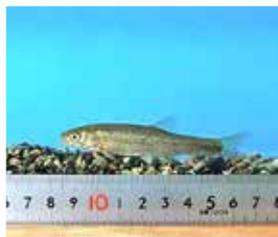
石淵ダム供用時の鹿合橋下流



胆沢ダム供用後の鹿合橋下流



下流河川で確認される魚類



アブラハヤ



ウガイ



サクラマス (ヤマメ)



カジカ

胆沢ダム建設後も、建設前から生息していた魚類が継続して確認されています。

●北上川の水質

昔の北上川は松尾鉱山からの強酸性水の水質改善のため投入した中和剤により川の水が赤く濁って流れていました。また、閉山後は水質が極度に悪化し、昭和40年代は魚類の大量へい死事故が相次ぎ、北上川は「死の川」となりました。しかし、現在では四十四田ダムの完成と中和処理の実施により北上川は清流化され、水質 (pH) も改善されています。



北上川と松川合流地点

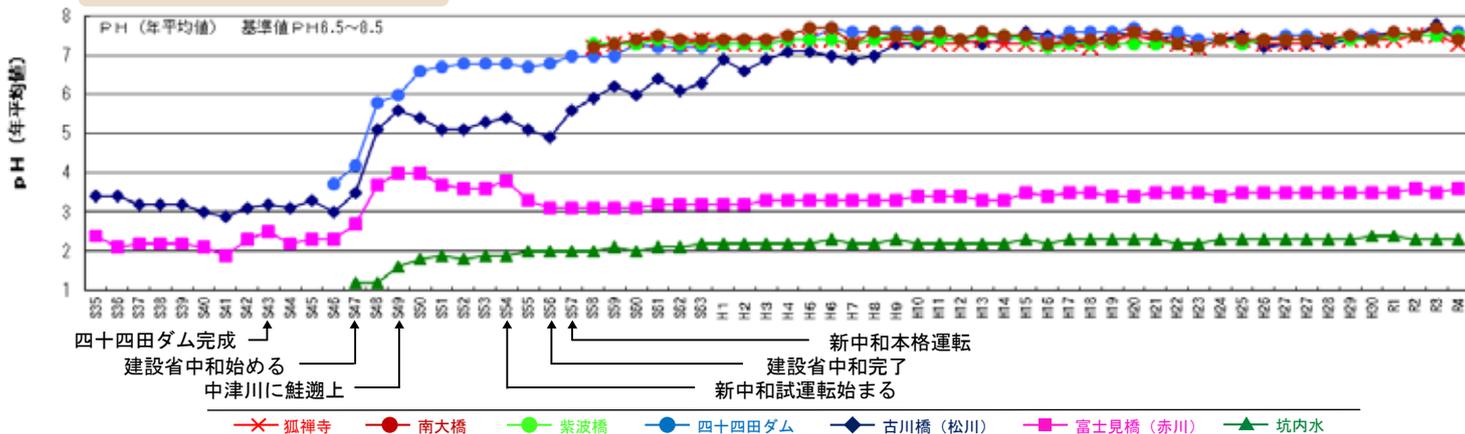


中和処理開始当初 (昭和49年)



現在

北上川の pH 経年変化



洪水時の対応



洪水が予想される時には、気象情報や各観測所からの雨量・水位等のデータ情報をもとに、今後のダム流入量を予測し、洪水調節及び放流量の見通しを検討します。放流に当たっては、あらかじめ河川を利用している人や下流沿川住民にスピーカーやサイレンによって注意を喚起し、警報車によるパトロールを行う一方、関係する警察・消防署・報道機関・市町村・岩手県等に通知します。放流の準備が整うと、下流河川の水位を急激に上昇させないようにゲート操作を行い放流を実施します。



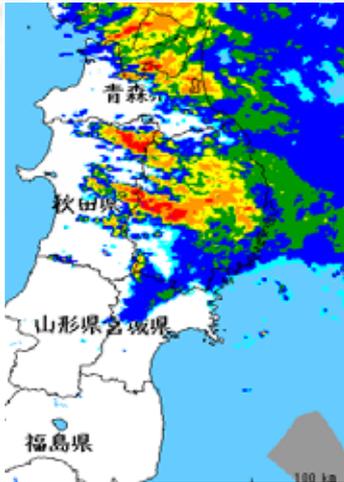
1. 情報収集

▶レーダ雨雪量計

降っている雨や雪に電波（レーダビーム）をあて、その雨や雪の強さに応じて反射する電波（反射エコー）を受信し、雨雪量を測定しています。



西岳レーダ基地



盛岡レーダ基地



物見山レーダ基地

▶雨量・水位テレメータ

北上川上流域に設置された雨量観測所、水位観測所などをテレメータ化（ロボット化）し、自動的に観測データがリアルタイムに配信される仕組みになっています。



▶CCTVカメラ

ダム運用による河川状況の変化などを映像で監視しています。画像は当事務所のホームページでも公開しています。



2. 情報伝達・提供



川の防災情報

- PC <https://www.river.go.jp/>
- スマートフォン <https://www.river.go.jp/portal>



北上川ダム統合管理事務所ホームページ

- PC <http://www.thr.mlit.go.jp/kitakato/>
- スマートフォン（リアルタイム情報）
<http://keitai.thr.mlit.go.jp/kitakato/sp/>
- 携帯電話（リアルタイム情報）
<http://keitai.thr.mlit.go.jp/kitakato/mobile/index.html>

スマートフォン



携帯電話



▶放流警報所

放流の開始、放流による水位の上昇等を、下流の警報所を通じて地域の方にお知らせします。

放流中は、河川増水の危険を継続して表示し、視覚的にもお知らせします。

災害時には、地域の自治体から避難勧告等の情報を提供します。

▶警報車

ダム放流時には、警報車により下流河川を巡回します。



放流警報所



3. 放流操作



▶ゲート操作

ゲート操作は、ダム操作規則に従って行います。また下流河川への急激な水位上昇が生じないようにしながらダムから放流を行います。

「緊急放流」とは、計画以上の洪水によりダム湖に貯められなくなり、ダム湖に流れ込んでくる水を、そのままダムを通過させ下流に流すことです。ダム湖に流れ込んでくる水量以上を下流に流すことはありません。

サイレン等の吹鳴方法

ダムから放流するときは、ダム放流の約1時間前に警報を出して、危険防止に努めています。

ダムから放流するときは、次の方法でサイレン（スピーカー）を鳴らします。

警報が出た時は川の水が増えて危険ですので、十分注意してください。また、川の中で遊んだり、仕事をしている人を見つけたら、注意を呼びかけるよう、お願いいたします。

サイレン・スピーカーによる警報



(※) 緊急放流（異常洪水時防災操作）の際、②緊急効果音が鳴ります。

警報所（スピーカー）



警報所（サイレン）

北上川5大ダムから放流する時の“放流警報音”を聴く場合はこちら



放流警報所による警報

警報車による警報

4. 防災訓練



洪水時に備え、毎年関係機関と連携し、防災訓練を実施しています。



盛岡市（館坂）での地元と訓練



ダム管理演習

5. 国土強靱化対策



「異常豪雨の頻発化に備えた、ダムの洪水調節機能に関する検討会」での提言を踏まえ、ダム下流の住民等への確実な情報周知を図る必要があるため、浸水想定区域内に位置する警報所局舎の嵩上げやスピーカを増設する対策を行っています。

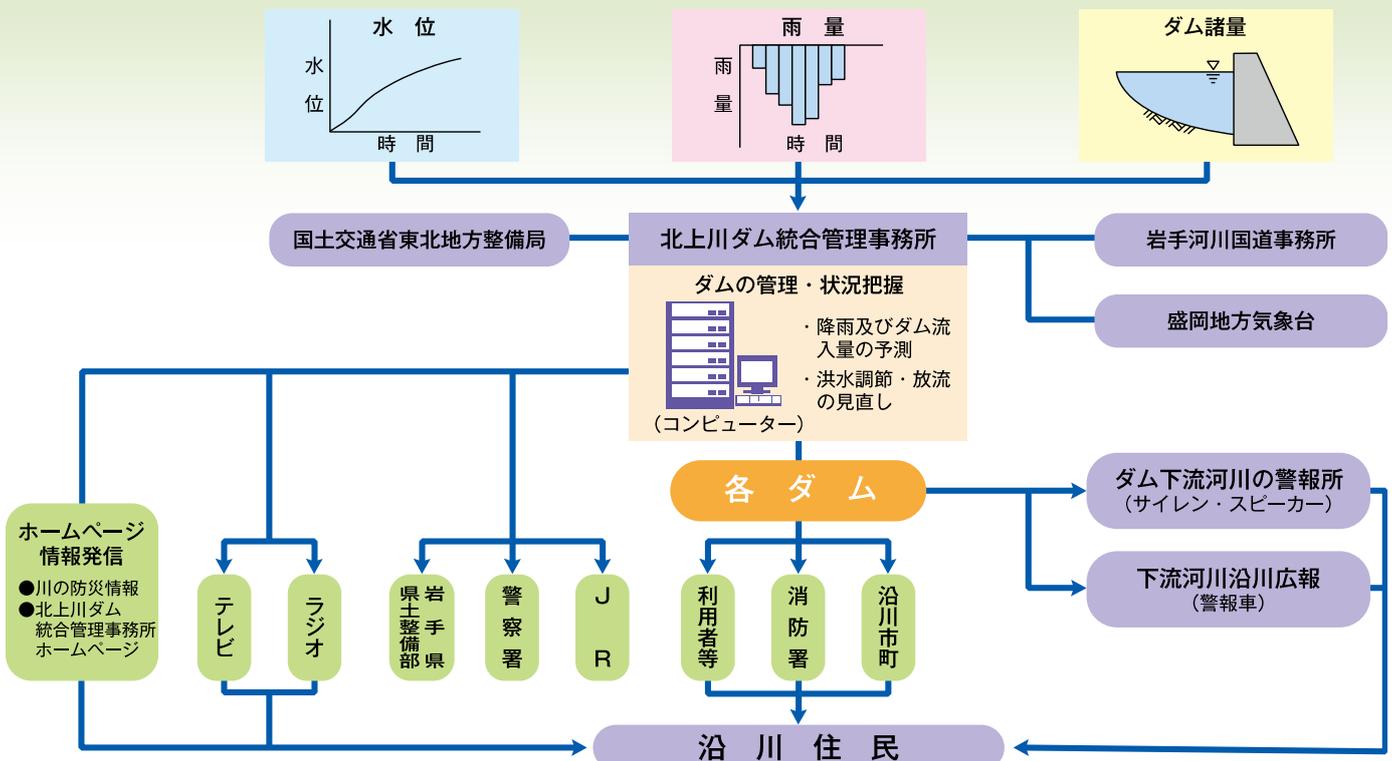


局舎耐水化対策（嵩上げ）



スピーカー増設

ダム放流情報図



ダムの維持管理

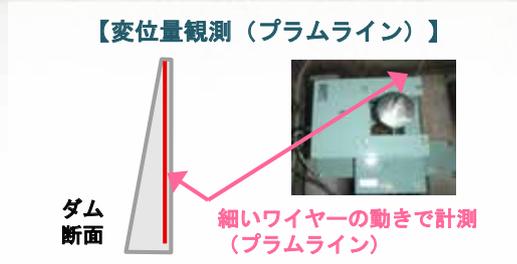


堤体管理

ダム堤体に異常が生じていないか確認するための観測を行っています。
監査廊内では、水圧や漏水量、変位量が計測されているほか地震計も設置されています。



漏水観測



変位量観測



地震計



機械関係設備の主な保全整備

ダムに設置されている放流設備や取水設備は、ダム貯留水の洪水調節、上水道、かんがい等の各種用水供給、発電などにおいて重要な施設です。ダムの機能を正常に発揮するため、これらゲート設備等を良好な状態に維持し信頼性を確保するため点検整備を行います。点検では設備の損傷や異常発見のための確認のほか、動作試験を実施します。整備については、ゲート設備を動作させるワイヤロープやギヤ類への給油、水密ゴムの交換などを行います。



ゲート設備の点検



ワイヤロープの点検



開閉機ギヤへのグリース塗布状況



電気通信関係設備の主な保全整備

ゲート操作を行うダム放流制御設備、受変電設備、雨量水位を観測・伝送するテレメータ設備、管内各ダムとの連絡手段となる通信関係設備などダムを管理する上で重要な設備の点検整備を行い、常に正常な状態を維持するよう必要に応じて部品等の交換を行います。



受変電設備



ダム放流制御設備



テレメータ設備



水文観測及び保守点検

雨量や水位・流量などの水文観測データは、降雨流出現象の解明や過去からの統計解析に基づいた合理的な河川構造物の設計・洪水予測技術の向上などに活用される必要不可欠なデータとなっています。

正確な観測データを取得するため、定期的に水文観測施設の保守点検、流量観測を行っています。



観測施設の点検状況



流量観測状況

堆砂測量

ダムには、河川から水とともに土砂が流入します。そうした土砂がダム湖内に堆積（堆砂）することから、ダムには、洪水調節やかんがい、発電などのための容量（有効貯水容量）とは別に、土砂が貯まる容量をあらかじめ見込んでいます（計画堆砂容量）。この計画堆砂容量を超過するような規模で堆砂が進行すれば、ダム機能への影響も考えられます。また、ダムを管理する上で、ダム水位とダム容量の関係性を把握しておく必要があります。

このため、各ダムでは定期的に堆砂量を調査しています。



堆砂対策

堆砂対策として、貯砂ダムや床止工の設置によりダム施設の長寿命化を図るほか、定期的に土砂の撤去を行っています。撤去した土砂の一部は、地元自治体と連携し、開発事業への盛土材に提供するなど有効活用しています。



四十四田ダム貯砂床止工 (H28.12竣工)



堆積土砂掘削状況



掘削土砂活用状況

水質保全対策

田瀬ダムでは、水質保全対策（アオコ※発生の抑制対策）として、平成19年度から「散気式ばっ気装置」を稼働させています。

平成25年度からは学識者等による「田瀬ダム水質検討会」を開催し、水質保全に関する意見や助言を頂きながら、水質保全対策を実施しています。

施設の概要

ばっ気装置×4基
水カコンプレッサ×2台

ばっ気装置稼働状況

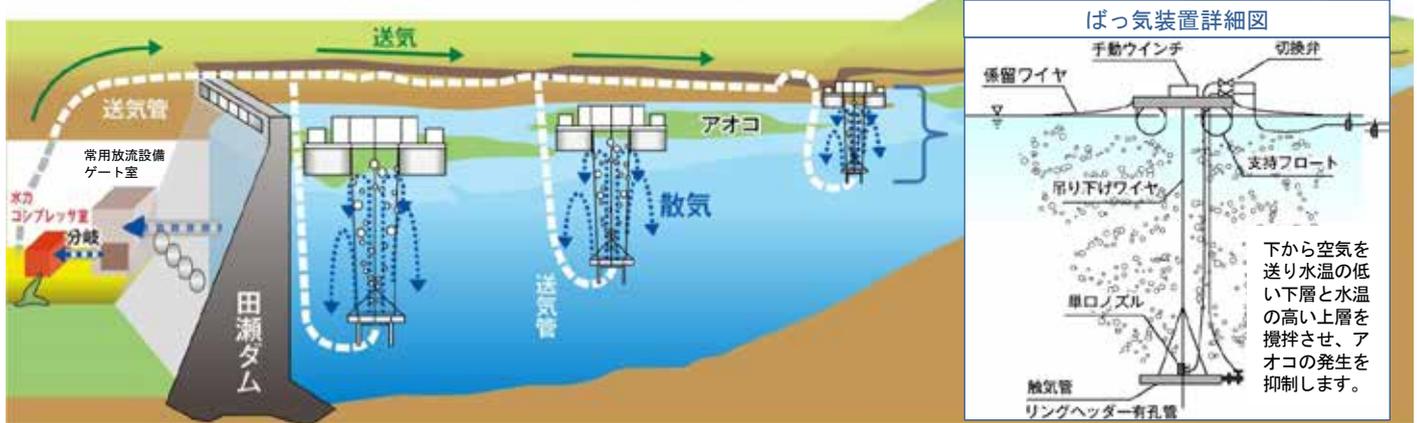


アオコ発生状況



貯水池水質保全事業全体図

※アオコとは植物プランクトン（藍藻類）が異常増殖して水の表面が緑色の粉を吹いたようになる現象で富栄養化の進んだ全国の湖沼で見られます。



水質保全施設のイメージ図

水質調査



ダムでは、貯水池やダムに流入する河川及び下流の河川の水質調査を実施しています。毎月1回貯水池の水及び河川水を採取し、pH、COD（化学的酸素要求量）などの環境項目を測定しています。

北上川ダム統合管理事務所の各ダムについては、環境基準値の代表的な水質指標であるCODを、概ね満足しており比較的良好な水質を保持しています。



採水作業



分析作業



流木処理

融雪期や出水期にはダム流域から流木が発生します。網場で流木を補足し、速やかに回収、処分を行っています。資源の有効活用と処分費削減のため、一般提供も行っています。



流木引き上げ状況



流木仮置き状況



流木一般提供状況



流木活用事例（薪ストーブ）

環境調査



●河川水辺の国勢調査

河川を環境という観点からとらえた定期的、継続的、統一的な河川に関する基礎情報の収集整備の為、「河川水辺の国勢調査」を実施しています。



ヤマメ



モリアオガエル



ツキノグマ



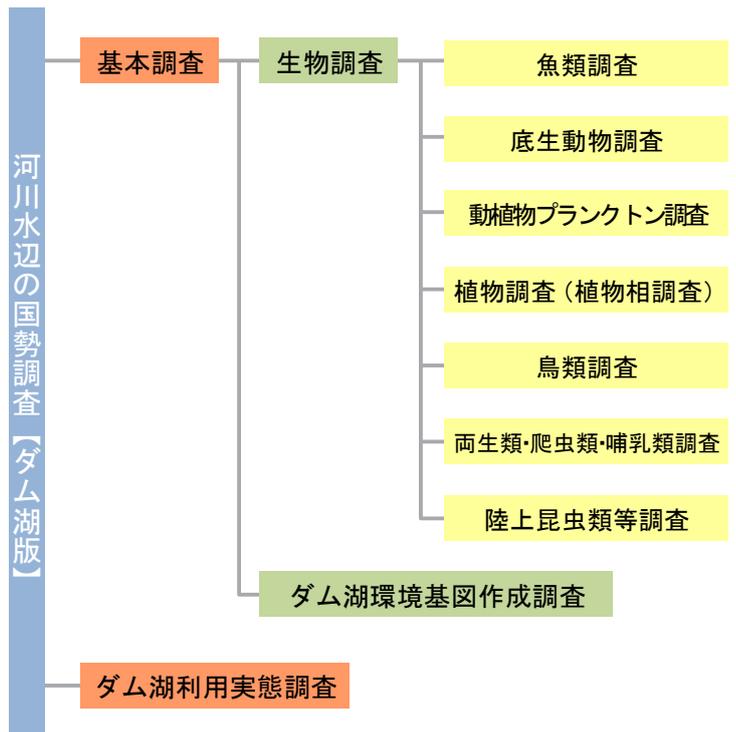
ハッチョウトンボ



オジロワシ



キンコウカ



効果的・確実な維持管理

●長寿命化計画

長期的にダムを運用していくために、ダムの維持管理及び設備の更新等をより効果的・効率的に推進していけるよう計画し、維持管理をしています。



●総合点検

長期的な経年変化の状況や構造物の内部の状態等に着目し、ダムの健全度について総合的に調査及び評価します。その結果得られる維持管理方針を日常点検や定期検査等に反映させ効果的・効率的なダムの維持管理を行います。



総合点検（現地）



総合点検専門委員会

ストックマネジメント会議



事務所全体で各業務の**情報共有**を行い、**取り組み状況等**を評価し、必要に応じて**課題に対する対処方針**を意思決定することによって効果的・効率的なダム管理を推進しています。（ダム管理におけるPDCA型管理）

PDCAサイクル

PLAN

- 点検・調査基準に基づく実施、長寿命化計画の策定
- 事業の実施に関する計画、維持管理に関する具体的な計画を策定
- 【事業の実施に関する計画】
 - ・実施計画
- 【維持管理に関する計画】
 - ・長寿命化計画、維持管理計画

ストックマネジメント
会議による確認

DO

- 計画に基づく実践
- 長寿命化計画に基づく調査・工事等
- 点検整備・調査測定基準の実施
 - ・巡視及び点検における職員の確認
 - ・自治体や利用者との合同点検
 - ・専門者による点検
- 成果の情報共有
 - ・データベース化
 - ・データ共有
 - ・各種台帳の整理

各ラインによる取りまとめ

各ラインによる検討

ACTION

- 評価結果を踏まえた計画（優先順位、対応方法）検討
- 専門の有識者会議・所内各種会議
 - ・長寿命化計画の見直し検討
 - ・実施プロセスの改善
- 各種計画への適切なフィードバック

ストックマネジメント
会議による方針決定

CHECK

- 調査結果、巡視・点検結果に基づく現状評価
- ストックマネジメント会議の開催
 - ・所内の意見や情報を一元管理
 - ・実施プロセスのフォローアップや進捗管理、成果についてマネジメント
 - ・工事・調査結果、巡視・点検結果の各取り組み状況及び業務の成果の評価、課題への対応方針等の決定



会議状況

ストックマネジメント会議

- ・年度成果の共有と評価
- ・長寿命化計画への反映
- ・年度計画の見直し、事業への反映等

★評価会議★

- ・点検・調査の評価判定
- ・対応方針等の決定

地域とともに



ダム水源地域ビジョン

国土交通省と水資源機構の所管するダムでは、ダムを活かした水源地域の自立的・持続的な活性化を図り、流域内の連携と交流によるバランスのとれた流域圏の発展を図ることを目的とした行動計画「水源地域ビジョン」を策定しています。北上川ダム統合管理事務所の所管するダムにおいても、ビジョン推進協議会などにより、流域の特徴や地域性を活かした取組が進められています。

御所ダム水源地域ビジョン

<基本理念>

御所湖及び流域の多様な環境の保全と再生に努めると共に、御所湖及び周辺施設の利活用を促進し、水を軸とした交流・連携を強化、推進する。

<基本方針>

- 御所湖の利活用促進
《人を育む水と緑 ～森と湖のミュージアム～》
- 多様な環境の保全と再生
《人と自然の共生 ～22世紀の水源地域づくり～》
- 水を軸とした交流・連携の強化・推進
《交流と連携で発展 ～にぎわいの御所湖・北上川～》



やまめの稚魚放流

湯田ダム水源地域ビジョン

<基本理念>

和賀川流域—活きる水・育む自然・つながる人

<目標>

- 目標1. 自然の保全と文化の継承
- 目標2. 資源を生かす地域づくり
- 目標3. 住民参加と地域連携



雪あかり（ほっと湯田駅前）



SDGs西和賀

四十四田ダム水源地域ビジョン

<水源地域の将来像>

歴史・風土を受け継ぎ、未来につなぐ^{しあわせ}四十四田の水源地域

<基本方針>

- みつける：水源地域の自然・風土や歴史・文化に関わる資源を保全・活用する活動を掘り起こします
- つなげる：情報技術を駆使し、普段からの情報共有・発信の場を構築します
- ひろげる：子どもたちをはじめとする流域の多くの人が水源地域に関心を持ち、地域を愛する心、マナーを守る心を育てる活動を推進します



四十四田ダムさくらまつり



水源地子ども交流会

田瀬ダム水源地域ビジョン

<基本理念>

「水清く緑萌え 心が通う猿ヶ石川 ～田瀬ダム水源地域の活性化を目指して～」を基本理念（将来像）とし、水源地域の豊かな自然環境を保全・再生していくとともに、猿ヶ石川でつながる上下流の住民の方々が協力して、人づくり、地域の連携を基本とした自立的・持続的な活気のある地域の実現を目指します

<基本方針>

- 自然環境の保全と再生
- 資源・施設の有効活用
- 人づくり・連携の推進



田瀬湖一斉清掃&ごみ川柳大会



田瀬湖さわやかウォーキング

胆沢ダム水源地域ビジョン

<基本理念>

胆沢 水風土の継承と創造

<基本方針>

1. 胆沢扇状地の豊かな水と森林などの資源を守り育み、活かす
2. 胆沢ダムが育む水風土資源を活かした環境学習・観光レクリエーション振興を図る
3. 胆沢扇状地の自然・歴史・文化資源を活かした産業振興を図る
4. 水でつながる地域と上下流の交流を活発化する
5. 自立的かつ持続的な水風土ネットワークをつくる



堤体登山体験



ラフティング体験



カヌー体験教室

地域連携の取り組み

<北上川水源地域ビジョン交流会>

北上川五大ダムの各ダム水源地域ビジョンの活動団体と関係機関による交流・情報交換を目的として「北上川水源地域ビジョン交流会」を開催しています。

各団体からの活動状況報告や今後の構想等の発表を行い、活発な議論が交わされ、各団体の連携を推進しています。

<北上川「流域圏」推進交流会議>

北上川流域の川をテーマに活動している団体・行政が集い、川を軸とした地域間、官民の交流と連携を通じて、豊かな自然を保全し、歴史や文化を尊重しながら安全で楽しい水辺の創造をはかり、市民の活力あふれる社会の実現に寄与することを目的に、フォーラム・講演会の開催や交流会議での意見活動など様々な活動をおこなっています。



北上川水源地域ビジョン交流会



北上川「流域圏」推進交流会議



北上川水源地域ビジョン交流会



北上川水源地域ビジョン交流会

和賀川の清流を守る会 令和3年ダム建設功績者表彰受賞

「和賀川の清流を守る会」は、ダム及び流域の安全で良好な水質を維持するため、継続的かつ持続的に水質管理の向上を図る体制の確立と、地域と連携した環境認識の高揚・啓発による、流域一体での継続的な水環境の保全・改善に係る活動を、50年間にわたり実施しています。



令和3年受賞式の様子



イワナの稚魚放流



和賀川の清流を守る会清掃活動



アレチウリ駆除活動

胆沢平野土地改良区 「水土里（みどり）の皆廊」

胆沢平野土地改良区（奥州市）でのダムを利用した地域活性化の取り組みが、令和2年河川功労者表彰を受賞しました。胆沢ダム水源地域活性化協議会の構成団体として「水土里（みどり）の皆廊」などのイベントを開催しています。

水利歴史遺産等の施設を巡り、水文化の歴史を体感いただくことで、胆沢ダム及び水資源の大切さを地域に浸透させる取り組みを行っています。



令和2年度から皆廊の施設に加えた穴山用水堰と大迫力の白雪の滝

地域との連携

四十四田ダム

さくらまつりとダムキャンプ



キャラクター交流会とダムキャンプ

盛岡地区かわまちづくり(舟運)



もりおか丸

田瀬ダム

田瀬湖湖水まつり



Eボート大会の様子



水・空中花火大会の様子

全国やぶさめ競技大会



やぶさめ競技の様子



馬力大会の様子

御所ダム

御所湖まつり



御所湖まつりの様子

胆沢ダム

胆沢ダムフェス



カヌー体験の様子

ダム湖面巡視体験の様子

胆沢ダムカレー

湯田ダム

錦秋湖大滝サマーLIGHTフェスティバル in にしわが



錦秋湖大滝ライトアップの様子

西和賀町かわまちづくり



湯本地区整備イメージパース（整備中）

錦秋湖湖水まつり



錦秋湖湖水まつりの様子

胆沢ダム

胆沢ダム完成で安定した水量が河川へ供給され、奥州いさわカヌー競技場の整備が実現



カヌージャパンカップ、NHK杯全日本カヌースラローム競技大会の様子



四十四田ダム 御所ダム

「盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」を支えるため放流量を調節



スタート地点の様子



大会中の様子

総合学習



田瀬ダム森林探検隊



湯田ダム水源地見学会



四十四田ダム水源地子供交流会



御所ダム交流会

環境美化活動



北上川一斉清掃



田瀬湖一斉清掃&
ごみ川柳大会



ふるさとを外来種から守ろう！外来種オオクチバス駆除
アレチウリ駆除大作戦



奥州湖ブナの森づくり
下草刈り作業



御所湖の清流を守る会
御所湖統一清掃

北上川五大ダムと岩手県の歩み



北上川上流五大ダムの歩み

昭和 10	土会議は全国的な大災害を契機として「水害防備策の確立に関する件」を決議し、その中に「河水統制の調査ならびに施行」が盛り込まれた
昭和 12 年	河水統制事業制度創設（※1）
昭和 16 年	内務省の直轄改修河川に指定（※2）多目的ダム群による洪水調節機能を持つ北上川上流改修計画策定 田瀬堰堤（ダム）の工事に着手したが昭和19年8月、戦争により中止
昭和 21 年	石淵ダム工事着手（わが国初のロックフィルダムとして着手）
昭和 23 年	建設省発足
昭和 25 年	カスリン・アイオン両台風により計画が見直され田瀬ダムの工事が再開 国土総合開発法が制定 （河水統制事業が河川総合開発事業に変わる）
昭和 26 年	22年・23年台風を考慮し、計画を修正（※3）
昭和 27 年	北上特定地域総合開発計画が全国第1号として閣議決定される（2月）
昭和 28 年	石淵ダムが竣工（6月）
昭和 29 年	田瀬ダム竣工（治水に加え、発電・かんがい用水を供給）
昭和 32 年	湯田ダム工事着手（地形・地質・経済性を考慮し、アーチ・重力式ダムに決定）
昭和 37 年	北上川本川に四十四田ダム工事着手
昭和 39 年	湯田ダム竣工（11月）
昭和 43 年	四十四田ダム竣工（10月）
昭和 44 年	御所ダム工事着手（4月）
昭和 48 年	出水状況や流域内の開発状況から北上川の治水計画の見直し（※4）
昭和 49 年	御所ダムが水源地域対策特別措置法に指定される
昭和 50 年	北上川ダム統合管理事務所設置
昭和 56 年	台風15号により、五大ダムで洪水調節を実施（8月） 御所ダムが竣工（10月）
昭和 58 年	新石淵ダム調査事務所設置
昭和 63 年	田瀬ダム周辺の親水空間整備のため「レクリゾート事業」に着手（国・県・自治体・民間など調整をはかり実施）（H11年度完成） 新石淵ダム調査事務所が胆沢ダム工事事務所に名称変更

岩手県の主な歩み

昭和 16 年	太平洋戦争勃発
昭和 19 年	鹿妻堰工事終了
昭和 20 年	栗駒山火山活動開始 山王海ダム起工
昭和 22 年	カスリン台風襲来し、一関地方等で大被害
昭和 23 年	アイオン台風襲来で、再び県南・沿岸で大被害
昭和 28 年	胆沢・猿ヶ石両発電所起工される
昭和 30 年	岩手県に電力局が発足
昭和 31 年	岩洞ダムが起工される
昭和 32 年	県営発電第1号として胆沢川第2発電所完成
昭和 35 年	チリ地震津波で三陸沿岸が襲われ、甚大な被害発生 県営岩洞第1・第2発電所操業する
昭和 41 年	日本初の松川地熱発電所が完成する
昭和 42 年	県営四十四田発電所が操業開始
昭和 43 年	十勝沖地震発生し、沿岸に津波襲来 松尾鉱業が会社更生法の適用申請する
昭和 49 年	中津川にサケ遡上
昭和 52 年	旧松尾鉱山からの廃水処理する北上川清流化施設に着工（翌年完成）
昭和 55 年	御所湖広域公園事業整備着手
昭和 56 年	新中和処理施設運用開始

- ※1 河水統制事業とは、水系一貫した洪水処理と合理的高度な水利用を図るため河水を統合運用しようとする事業で、現在は河川総合開発事業に改称されている。
- ※2 直轄改修河川に指定した目的は、北上川流域の洪水防止と北上川流域の高度開発を図るためであった。このため、胆沢川、和賀川、猿ヶ石川、雫石川、北上川上流部に堰堤を設け

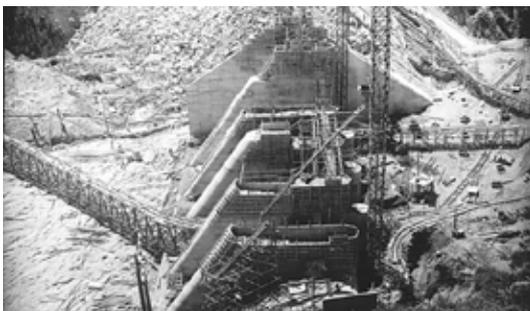
- るとともに、本川の河道を改修し洪水を防止するための工事を進めることとなった。昭和16年度の計画を大きく上回るカスリン・アイオン台風の襲来により、計画を見直し北上川五大ダム群と舞川遊水地（現一関遊水地）により洪水調節する計画に変更。
- ※4 近年の出水状況及び流域内での開発状況・資産を考慮し、全面的な計画の見直しを実施。



田瀬ダムの施工状況（S18.9本体打設）



工事再開後の田瀬ダム（S27.5）



石淵ダムの施工状況（S27.7門柱打設）



石淵ダムの施工状況（S27.8ロック材運搬）

北上川上流五大ダムの歩み	
平成 元 年	御所湖広域公園事業と一体となった「レイクパーク事業」に着手 (H10年度完成)
平成 3 年	「第3回森と湖に親しむ旬間」が全国行事、田瀬湖で開催 北上川総合開発50周年が実施される
平成 7 年	湯田ダム30周年(主催「和賀川フェア」実行委員会)
平成 8 年	田瀬ダムの施設改良工事(事業はH6年度~)に着手(H11年度完成)
平成 9 年	湯田ダムでは、貯水池保全事業として貯砂ダムの建設に着手(H14年度完成) 四十四田ダム周辺環境整備事業に着手(H13年度完成)
平成 11 年	湯田ダムの「地域に開かれたダム整備計画」が認定(11月)
平成 13 年	国土交通省発足 御所ダム20周年記念(主催御所ダム20周年実行委員会)
平成 14 年	湯田貯砂ダム竣工 御所ダムビジョン策定
平成 15 年	戦後3番目に大きい台風6号により、4ダムで洪水調節実施(7月) 石淵ダム50周年記念(主催石淵ダム竣工50周年記念事業実行委員会) 湯田ダム管理庁舎落成(10月)
平成 16 年	湯田ダムビジョン策定 田瀬ダム50周年記念
平成 17 年	地域に開かれたダム全国連絡協議会が湯田ダムで開催 湯田ダム環境整備事業(ダム湖活用)に着手(H19年完成) 田瀬ダム環境整備事業(貯水地水質保全)に着手(H19.3完成) 田瀬ダムビジョン策定
平成 18 年	湯田ダム「きんしゅうこものしり館」落成 北上川ダム統合管理事務所新庁舎工事着手(H19年完成)
平成 19 年	田瀬ダム貯水池水質保全事業完成 低気圧により四十四田ダム及び御所ダムで完成以来最大の流入量(四十四田:965.96m ³ /s、御所:2197.82m ³ /s)を記録(9月) みちのくダム湖サミットが湯田ダムで開催(11月) 北上川ダム統合管理事務所新庁舎落成(2月)
平成 23 年	四十四田ダムビジョン策定
平成 24 年	石淵ダム管理終了(10月)、石淵ダム、胆沢ダム引継ぎ 胆沢ダム試験湛水開始(12月)
平成 25 年	8月9日、豪雨により御所ダムで計画規模(2,450m ³ /s)を超える過去最大の流入量3,733m ³ /sを記録(8月) 9月16日、台風18号により四十四田ダムで計画規模(1,350m ³ /s)を超える過去最大の流入量1,468m ³ /sを記録(9月) 胆沢ダム竣工(11月)
平成 26 年	錦秋湖及び和賀川活用に関する検討委員会結成 胆沢ダム管理移行(4月) 錦秋湖50周年記念交流会(錦秋湖及び和賀川活用に関する検討委員会) 田瀬ダム60周年記念 みちのくダム湖サミットが田瀬ダムで開催(11月)
平成 27 年	地域に開かれたダム全国連絡協議会・現地交流会が湯田ダムで開催
平成 28 年	8月30日、台風10号により田瀬ダムで既往2番目の流入量1,050m ³ /sを記録(8月) 「川又神楽復活後援会」「川前神楽保存会」が、日本ダム協会・建設功績者表彰を受賞(11月) 四十四田ダム床止工が完成(12月)
平成 30 年	四十四田ダム50周年記念 みちのくダム湖サミットが四十四田ダムで開催(10月)
平成 31 年	北上川上流ダム再生事業着手(4月)
令和 元 年	「田瀬ダムの高圧放流設備」が日本機械学会の機械遺産に認定(8月)
令和 3 年	「北上川上流総合開発ダム群(田瀬ダム、湯田ダム、四十四田ダム、御所ダム、石淵ダム)」が土木学会の選奨土木遺産に認定(9月)
令和 5 年	御所ダム40周年記念 胆沢ダム竣工10周年記念 湯田ダムの地域活性化の取り組みが「全建賞」受賞

岩手県の主な歩み	
平成 7 年	三陸はるか沖地震発生、盛岡震度5
平成 10 年	岩手山火山性地震が続き、入山禁止となる
平成 14 年	台風6号襲来
平成 15 年	三陸南地震発生、盛岡震度5弱(5月)
平成 17 年	平成17年下記の通り市町村合併が実施された 宮古市、八幡平市、一関市、遠野市、西和賀町、 花巻市、洋野町、二戸市、盛岡市、奥州市、久慈市
平成 20 年	岩手・宮城内陸地震、震度6強(6月)
平成 23 年	東日本大震災(3月11日)
平成 25 年	「6月8日から8月9日までの豪雨及び暴風雨による激甚災害」に雫石町と紫波町が指定される
平成 26 年	滝沢市誕生(1月1日)
平成 28 年	「台風第7号、台風第11号、台風第9号及び台風第10号による激甚災害」に宮古市、久慈市及び岩泉町が指定される(9月) 2016希望郷いわて国体開催(10月)
令和 元 年	台風第19号、襲来(10月)
令和 3 年	築川ダム竣工(7月)

『北上川上流総合開発ダム群』が 選奨土木遺産に認定

北上川上流総合開発ダム群(田瀬ダム、湯田ダム、四十四田ダム、御所ダム、石淵ダム)は「北上川流域の治水を最大の目的にしながら、発電・かんがい用水・上水道用水などの機能を併せた多目的ダム群として、北上川上流域の地域経済の発展に寄与した貴重な土木遺産」として選奨土木遺産に認定されました。



記念撮影の様子(ダム所在地市町長、利水者、ダム管理者)

湯田ダムの地域活性化の取り組みが 『全建賞』受賞

「錦秋湖スプリング放流」や「錦秋湖大滝ライトアップ」などの季節ごとのイベントの開催、徹底した広報展開が観光客の増加など地域活性化に貢献したことが評価され、「全建賞」を受賞しました。



「全建賞」盾

ダムものしり館 楽しく学べるダムのあれこれ



四十四田ダム

南部片富士湖ものしり館・防災センター



ダムの役割や自然環境についての、パネルや生物標本などを展示しています。



開館時間 9:00～16:30

御所ダム

ごしょこものしり館・防災センター



御所ダムの概要や御所湖周辺に棲む生物・パネルなどを展示しています。



開館時間 9:00～16:30

田瀬ダム

田瀬ダムものしり館・防災センター



田瀬ダム建設の記録や役割、周辺地域の紹介、流域の生き物を展示しています。また、機械遺産の高圧放流設備について屋内外に展示中です。



開館時間 9:00～16:30

湯田ダム

きんしゅうこものしり館・防災センター



湯田ダムの建設のあゆみ、錦秋湖周辺や流域の自然、文化に関するパンフレットやパネルを展示しています。



開館時間 9:00～16:30

胆沢ダム

胆沢ダム展示室



胆沢ダム建設のあゆみやダムの役割を紹介するパネルコーナーと、水没した石淵ダムに関する資料を見学できます。

開館時間 9:00～17:00

臨時で「ものしり館の休館」や「ダムカードの配布中止」することがあります。その際は、事務所ホームページでお知らせします。

ダムカードがもらえる!



2007年から、国土交通省などが管理するダムでは、ダムの特徴を紹介したカード型パンフレット「ダムカード」を作成しダムを訪れた人に配布しています。おもて面はダムの写真、うら面はダムの型式や貯水池の容量・ダムを建設したときの技術といった基本的な情報からちょっとマニアックな情報まで凝縮して載せています。

配布時間

四十四田ダム・御所ダム・田瀬ダム・湯田ダム【平日・土日祝】※1 9:00～16:30
胆沢ダム【平日】※2 9:00～12:00 13:00～17:00
【土日祝】※1 10:00～12:00 14:00～17:00

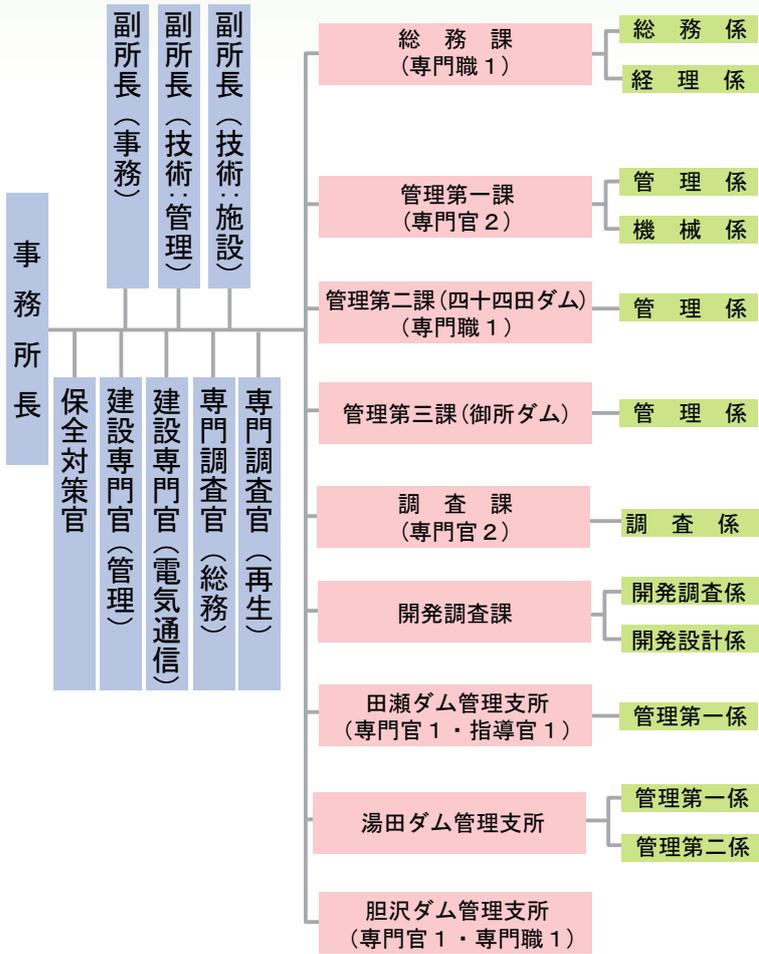
※1. 正面玄関の脇にあるインターホンを押してください。

※2. 展示室総合案内にて配布いたします。

管理事務所のあらし



組織図



業務内容

総務課

- 予算の管理
- 国有財産、物品の管理
- 請負・物品の購入等の契約事務
- 給与事務、宿舍の管理、福利厚生事務
- 事故防止対策委員会の窓口
- 公共工事契約相談室事務局

管理第一課

【管理】

- 管理
 - ・洪水時のダム放流量の調節と関係機関への通知
 - ・発電、かんがい用水等の利用者との連絡調整
 - ・河川管理区域における土砂の採取、工作物の新築、土地及び流水の占用許認可事務等
 - ・工事の企画及び基本計画等
 - ・洪水予測等の精度向上検討
- 維持
 - ・ダム施設及び貯水池・湖岸等の維持修繕並びに災害復旧における土木・営繕関連工事に関する設計積算
 - ・維持、管理に要する事業費の要求

【機械】

- 放流、取水、制水設備、排水設備、昇降設備、係船設備等の諸設備及び船舶、車両等の保守管理に係わる計画設計、積算

調査課

【調査】

- 気象、雨雪量、水位、流量、水質等の調査、環境に関する調査
- 地形、地質等の測量及び調査
- 地域づくり相談室事務局

【企画】

- 工事の発注に係わる技術提案の審査・評価に関する業務
- 工事検査に関する業務
- 品質確保施策、新技術活用の促進に関する業務

【電気通信】

- ダムに係わる観測データ並びに情報の高速化の推進
- ダム管理設備の動力源である電源の安定供給を図るため、電力設備、通信設備及び情報設備の計画・設計
- 同上設備の管理、運用、保全、保安及び危害防止業務
- 同上設備の監督官庁諸手続き業務

開発調査課

【ダム再生】

- 「北上川上流ダム再生事業」の推進に関すること。

ダムを管理する各課（管理第二課・管理第三課）各支所（田瀬・湯田・胆沢）の業務

各課・各支所は、事務所と連携をとりながら、管理業務を行っています。

- 放流時の警報、パトロール、関係機関への通知、ゲート操作
- 技術開発相談室事務局
- ダム及び諸施設の保守点検
- 水文・水質等、並びに堤体の観測、監視データ整理
- 河川巡視、許認可事務及び利水者との連絡窓口
- 維持修繕工事等の監督
- 見学者への対応及び広報、イベント開催等
- 地域づくり相談室窓口
- 工事・業務の設計積算

事務所の管理区間

河川名	ダム名	管理延長 (km)
猿ヶ石川	田瀬ダム	14.2
和賀川	湯田ダム	17.7
北上川	四十四田ダム	16.0
雫石川	御所ダム	雫石川 8.8
		南川 5.9
		矢櫃川 2.8
胆沢川	胆沢ダム	胆沢川 7.0
		尿前川 2.6
		前川 6.2
		防沢 1.9

河川等の許認可

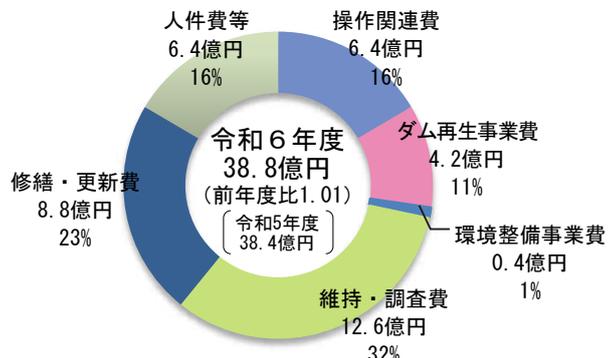
河川（ダム湖）は基本的に自由に使用できます。ただし、河川管理面を考慮し、一部行為を制限しています。

このような行為を行おうとするときは、河川管理者に申請を行って一般的に制限された事項の一部解除の認可を受ける必要があります。



管内河川等利用状況（R6年3月）

予算



北上川五大ダム アクセスマップ



北上川ダム統合管理事務所
TEL019-643-7831
管理第二課（四十四田ダム）
[南部片富士湖]
〒020-0123 盛岡市下厨川字四十四田 1
TEL019-643-7972



管理第三課（御所ダム）
[御所湖]
〒020-0055 盛岡市繫字山根 192-4
TEL019-689-2216



田瀬ダム管理支所
[田瀬湖]
〒028-0123 花巻市東和町田瀬 39-1-3
TEL0198-44-5211



湯田ダム管理支所
[錦秋湖]
〒024-0341 和賀郡西和賀町杉名畑 44 地割 162-15
TEL0197-74-2011



胆沢ダム管理支所
[奥州湖]
〒023-0403 奥州市胆沢若柳字横岳前山 6
TEL0197-49-2981



国土交通省 東北地方整備局
北上川ダム統合管理事務所
〒020-0123 盛岡市下厨川字四十四田 1
TEL019-643-7831 (代) FAX019-643-7834

各課直通の電話

- 総務課 019-643-7832
- 調査課 019-643-7973
- 管理第一課 019-643-7971
- 開発調査課 019-643-7974